

慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resources

Title	腫瘍描画に用いられる金属錯体
Sub Title	
Author	松島, 美一(Matsushima, Yoshikazu)
Publisher	共立薬科大学
Publication year	1986
Jtitle	共立薬科大学研究年報 (The annual report of the Kyoritsu College of Pharmacy). No.31 (1986.),p.86- 86
Abstract	
Notes	学会講演要旨
Genre	Technical Report
URL	http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062898-0000031-0087

腫瘍描画に用いられる金属錯体

松島 美一

〔講演会『生物無機化学の潮流』（日本薬学会他共催，1985年11月，東京）特別講演〕

シンチグラフィによる腫瘍診断の原理，用いられる放射性医薬品の現状，将来の見通しについて紹介した。広く用いられている放射性核種は非サイクロトロン核種で大部分が金属元素である。従って，放射性医薬品は金属錯体ないし金属キレートである。その中で，演者等の開発した^{99m}Tc 錯体，特に EDDA を中心とするコンプレキサン類のキレート，につき錯体化学的性質，医薬品としての特性を概説した。

HPLC を用いるバルビタール類の分離

米田利司子，三島史子，高井信治*，永田佳子
菅田節朗，松島美一

〔第1回 エル・エス・ティ学会大会（1985年11月，東京）で発表〕

マイクロボアカラムを用いる高速液体クロマトグラフィー（HPLC）は微量の試料の分析が可能である。将来ベッドサイドで生体試料の薬物の定量をする臨床薬学において，その重要性が増すものと期待されるので，マイクロボアカラムによるバルビタール類の分析の基礎的検討を行った。

Barbital, phenobarbital, secobarbital, allobarbital, amobarbital, cyclobarbital, hexobarbital の混合物を試料として用いた。装置は Hitachi 655-15，カラムサイズは 1×150 mm であった。充填剤は Hitachi-Gel 3056 を用い，高速化のために Hitachi-Gel 3056 のベースに C8 結合したゲル等についても併せて検討した。溶離液はアセトニトリル-水系を用いた。

C18 では数種のバルビタールの分離された優れたクロマトグラムが得られた。C8 カラムでは極めて短時間に溶出されることが判明した。

* 東京大学生産技術研究所